

令和5年度

第3回 学校教育審議会

【議 題】

不登校対策パッケージの検証と

次期支援パッケージ

令和6年3月26日（火）

千葉市教育委員会

学校教育審議会の見通し

1 諮問

本市の不登校対策について

- ・ 第一次不登校対策パッケージの現状と課題
- ・ 次期不登校対策パッケージを見据えて

2 次期不登校対策パッケージの 策定に向けて（協議）

- ・ 新たな不登校児童生徒の居場所、学習支援など

3 答申

不登校児童生徒とは ・ ・ ・ （文部科学省：定義）

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために、**年間30日以上欠席**した者のうち、**病気（ケガ）や経済的な理由を除いたもの**

学校には行けないけど
元気で活動的

人目が気になる
外に出るのが怖い

人間関係の構築が苦手

同世代との関わりが苦手

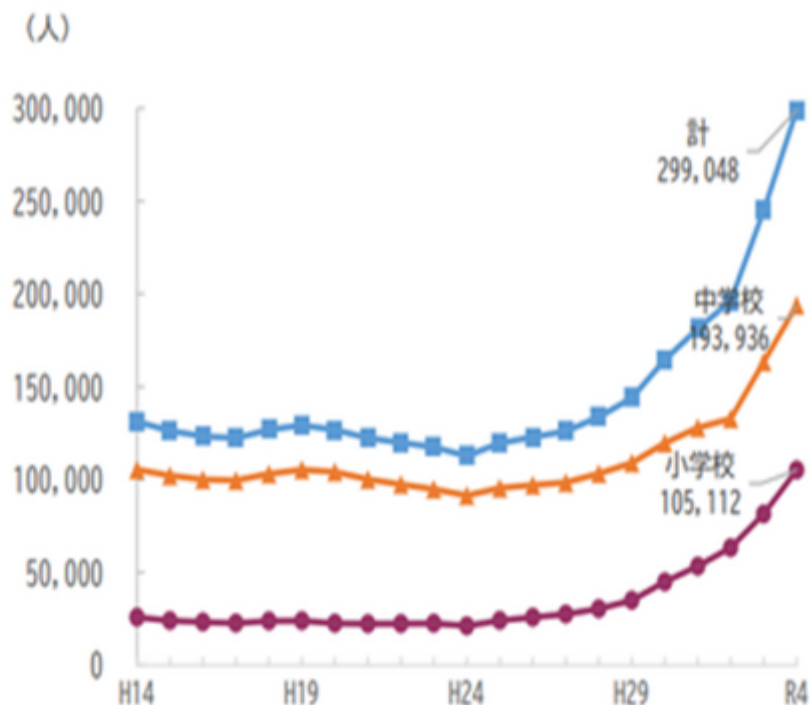
漠然とした不安

得意・不得意が極端

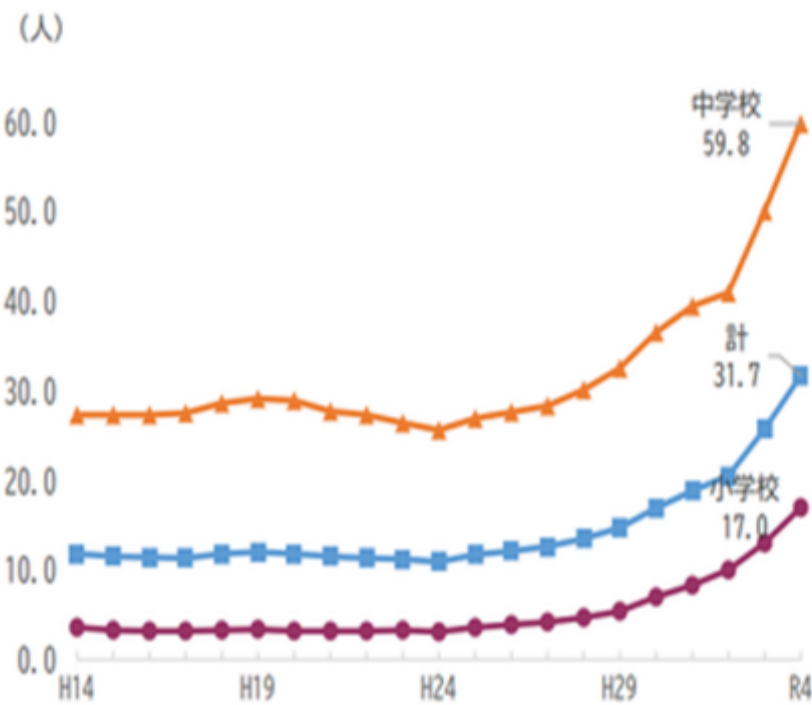
小・中学校における不登校の状況について（全国）

- 小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は299,048人（前年度244,940人）であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は31.7人（前年度25.7人）。
- 不登校児童生徒数は10年連続で増加し、過去最多となっている。

不登校児童生徒数の推移

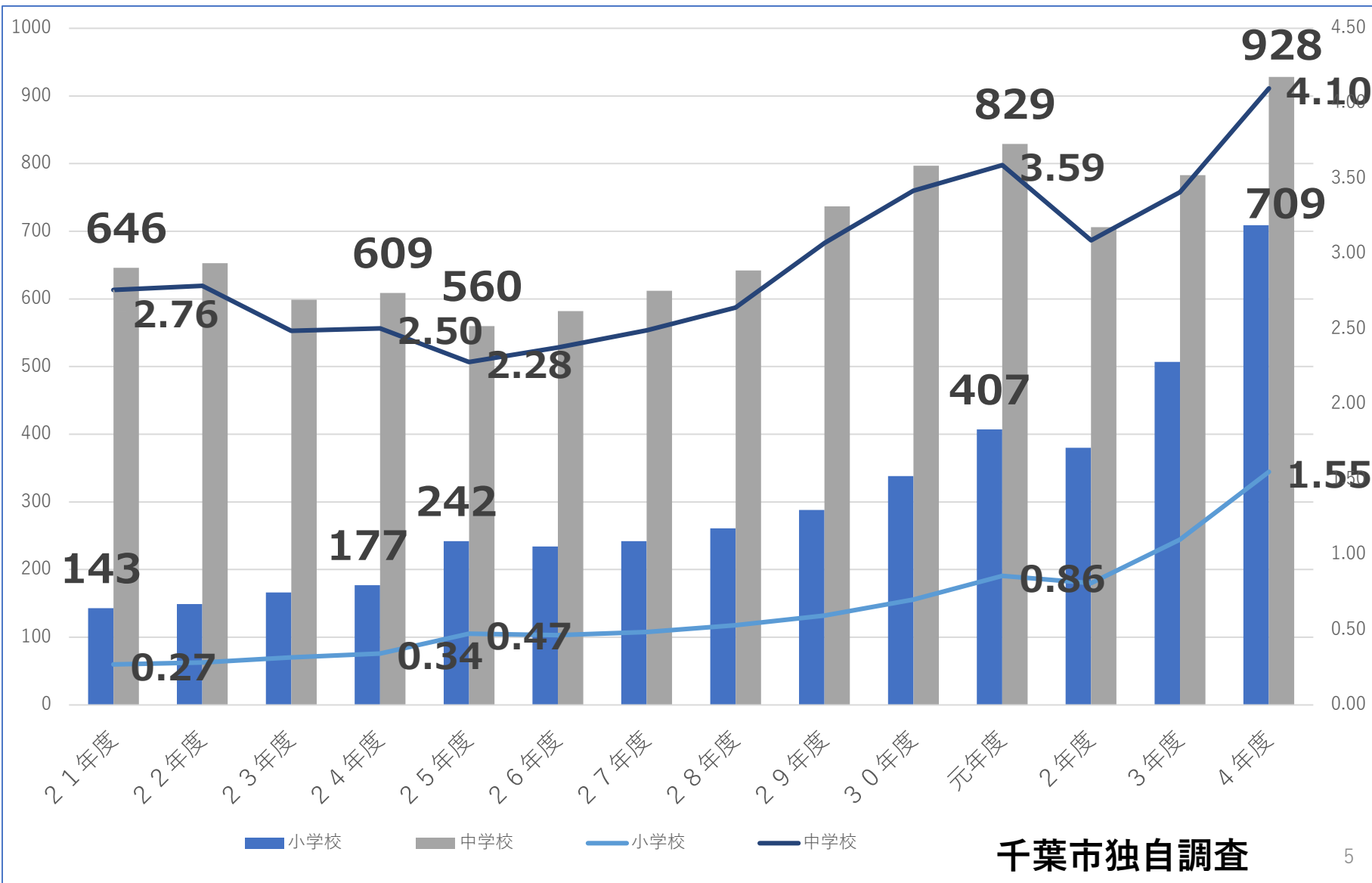


不登校児童生徒数の推移（1,000人当たり不登校児童生徒数）



令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査：文科省

千葉市の不登校児童生徒数(不登校率)推移



千葉市の不登校対策

不登校児童生徒に対する支援の基本的な考え方

一人一人の児童生徒のおかれた状況を踏まえ、
学校復帰を含めた、社会的自立を目指す

未然予防・早期発見・早期対応

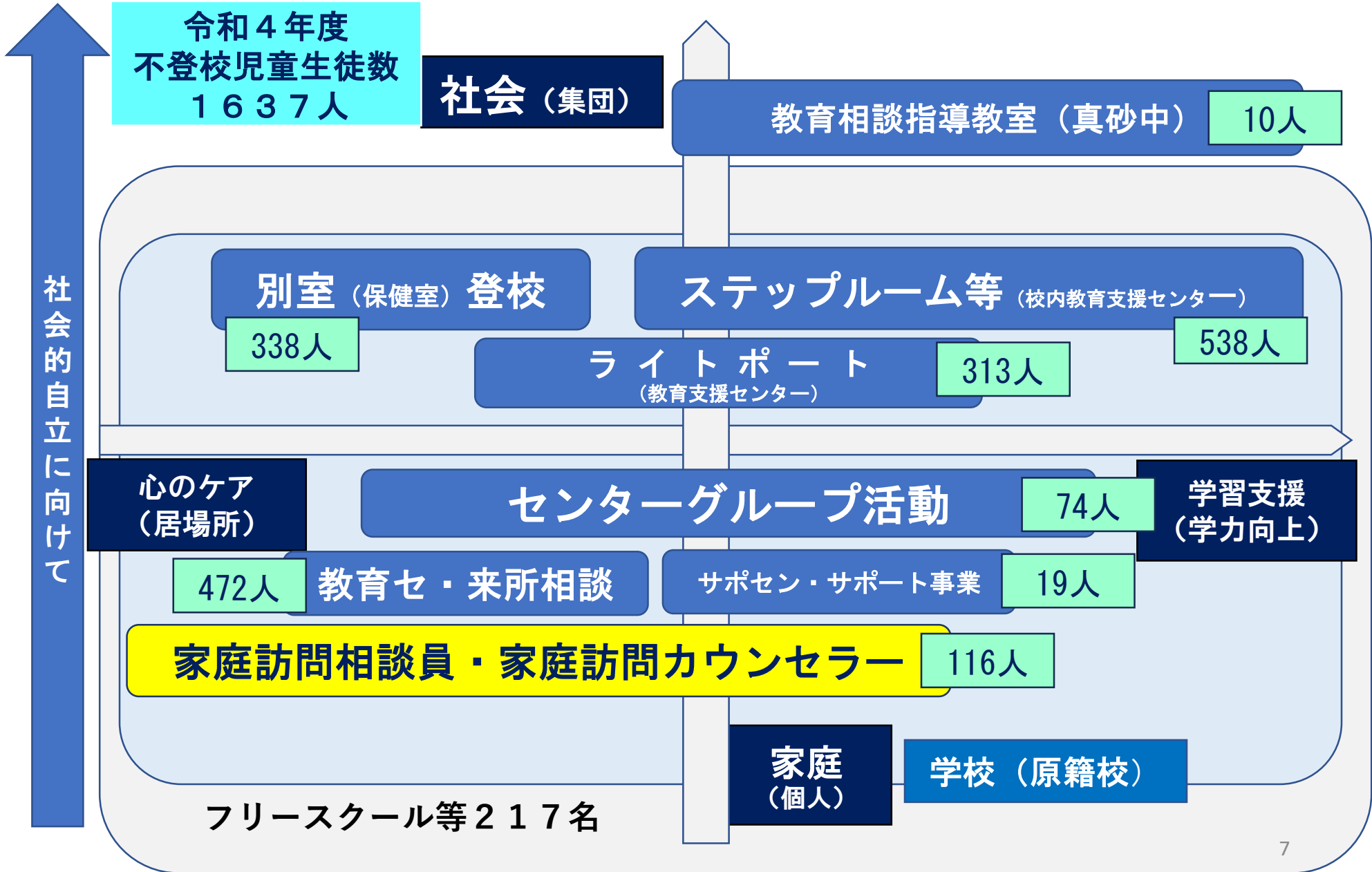
不登校状態にならないための支援
初期段階での支援

不登校児童生徒に対する支援

実際に不登校になってしまった児童生徒への支援
居場所づくり・学習支援
専門家による支援・相談



第一次不登校対策パッケージを踏まえた不登校児童生徒への支援



家庭訪問相談員・家庭訪問カウンセラー

家庭内にひきこもりがちな不登校児童生徒や病気による長期欠席の児童生徒のために、**家庭を訪問**し、個々の状況に応じた教育相談を実施し、**心のケア**を行います。

公認心理師等が、家庭訪問し、児童生徒だけでなく、保護者の悩みに対して、**カウンセリング**をします。



教育センターグループ活動

千葉市稲毛区轟町（第二養護学校の近く）

不登校の児童生徒たちの不安や悩みを相談活動を通して解消し、学習のつまずきを補い、**集団生活への適応力を**育て、社会的自立を支援します。**1日2時間程度の学習。**

【グループ活動・1日の流れ】

10:00	10:35	12:10	12:50	13:00	13:50	14:45	15:00
読書タイム	グループ カウンセリングタイム	学習タイム	ランチタイム	クリーンタイム	制作 話し合い ふれあい	スポーツタイム	振り返りタイム

グループ活動



中学生学習時間



幼稚園児童との交流

ジョイントキャンプ
キャンプファイヤー



ライトポート

(教育支援センター・各区1カ所設置)

大森・朝日ヶ丘・真砂西・千草台東・若松台・土気

【ライトポート・1日の流れ】

教科の学習や体験的な活動などを通して、学習のつまずきを補い、**集団生活**へとけこめるようにし、学校生活への復帰や社会的自立を支援します。
1日2時間の授業(学習)。

時間	活動
10:00~10:15	朝の会
10:15~10:45	学習タイム①
11:00~11:30	学習タイム②
11:30~12:10	昼食・清掃
12:10~12:40	スポーツタイム
13:00~14:00	グループ活動
14:00~14:15	帰りの会
~14:30	下校

ライトポート



小学生・授業



中学生・授業



ジョイントフェスタ
出し物

ステップルーム

(校内教育支援センター)

様々な要因で教室に入れなかったり、入りづらかったりする児童生徒が、安心して自分に合ったペースで学習・生活できる環境において、きめ細かな**相談支援**や個別の**学習支援**など、様々な教育の機会が確保され、社会的自立や教室復帰を目指す場として設置される。

ステップルーム ティーチャ어의配置



教育相談指導教室

(真砂中学校に設置)

心理的な要因による不登校生徒の増加と多様化に対応するため、「教育相談指導教室」を設置し、個々の生徒の状況に応じた相談指導を行うことにより、人間関係の改善と自我の確立を図り、**学校生活への適応**及び社会的自立を目指す。

通常の学級とほぼ同じ
学習形態（教育活動）



今までの不登校児童生徒への支援（S51～）

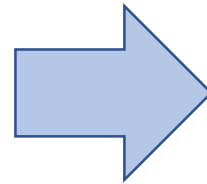
教育センター

中学校グループ活動
(S61～)

来所相談 (S51～)

家庭訪問相談員 (H7～)

電話相談 (S51～)



教育相談指導教室

S63～緑町中
↓(移設)
H26～真砂中



ライトポート (教育支援センター)

各区1カ所に設置(小学校)(H14～)
大森・朝日ヶ丘・真砂西・
千草台東・若松台・土気

不登校児童生徒支援の変化 (H26~)

小学生の不登校児童数増加
(H25: 200人突破)

教育センター

中学校グループ活動
(S61~)

来所相談 (S51~)

家庭訪問相談員 (H7~)

電話相談 (S51~)

小学校部
開設
(H26~)

教育相談指導教室

S63~緑町中
↓(移設)
H26~真砂中

小学校部開設
(R4~)

ライトポート (教育支援センター)

各区1カ所に設置(小学校)(H14~)
大森・朝日ヶ丘・真砂西・
千草台東・若松台・土気



文科省（R5.3.31）
「COCOLOプラン」
誰一人取り残されない
学びの保障に向けた
不登校対策

千葉県教育委員会

「誰一人

取り残さない教育」

を目指しています…

第一次不登校対策パッケージ

令和4～6年度

□ライトポート機能拡充

○小学生に特化したライトポートの設置【拡充】

現在のライトポートは中学生が中心であるため、小学生に特化したライトポートを設置し、きめ細かい支援を目指す。

○スクールカウンセラーの配置【新規】

各ライトポートにカウンセラーを配置し、通級児童生徒の精神的な安定と継続的な支援を行う。

□スクールカウンセラーの機能強化

○スクールカウンセラーの配置時間拡充【拡充】

カウンセリングの件数を増やすことや教職員と情報共有する時間を確保する。また、家庭訪問やオンライン等、アウトリーチによる手厚い支援を行う。

□教育センターの相談機能拡充

○スクールソーシャルワーカーの配置【拡充】

○教育相談支援員、来所相談カウンセラー、家庭訪問カウンセラーの配置【新規】

相談内容が複雑化、深刻化してきているため、公認心理師を雇用し、より専門的なカウンセリングを実施する。

つながらない
児童生徒

0へ



□ステップルームティーチャーを活用した登校支援【別室登校】

○ステップルームティーチャーの配置【新規】

教室に入ることができない児童生徒に対して、学習支援や相談支援を行う専任の指導員を配置する。

○校内支援センター（ステップルーム）の充実

□教職員への啓発と研修の充実

○キャリアに合わせた研修の充実【拡充】

経験時研修で不登校関連の研修を計画する。また、専門研修ではライトポートでの実習を行う等、研修の体制づくりと教職員の資質向上を目指す







□フリースクール等との連携強化

○委託事業拡充【拡充】

○運営補助事業、活動費・通所費等助成事業【拡充】

学習図書への貸与、フリースクール等民間施設への運営補助を行う。また、フリースクール等やライトポートにおける活動費や通所費等を助成することで、経済的支援を行う。

第一次不登校対策パッケージ（R6年度に向けて）

ライトポート機能拡充	スクールカウンセラーの機能強化	教育センターの相談機能拡充	ステップルーム ティチャーを活用した 登校支援【別室登校】	教職員への啓発と 研修の充実	フリースクール等との 連携強化
					
<p><R4> ○小学校部設置 ○ライトポート専任カウンセラー1名配置 (280時間/年/1所)</p> <p><R5> ○ライトポート専任カウンセラー2名配置 (120時間/年/2所)</p> <p><R6> ○ライトポート専任カウンセラー2名配置 (343時間/年/2所)</p>	<p><R4> ○小学校カウンセラー37週⇒40週拡充</p> <p><R5> ○カウンセラー大規模小学校160時間⇒200時間</p> <p><R6> ○配置時間拡充 前年比1850時間増 小学校 120時間38校 150時間31校 190時間38校 高等学校 140時間⇒280時間</p>	<p><R4> ○家庭訪問カウンセラー2名配置</p> <p><R5> ○家庭訪問カウンセラー4名配置 ○来所相談カウンセラー1名配置</p> <p><R6> ○家庭訪問カウンセラー9名配置 ○来所相談カウンセラー1名配置</p>	<p><R4> ○募集</p> <p><R5> ○4名配置 小学校 2校 中学校 2校</p> <p><R6> ○10名配置 小学校 6校 中学校 4校</p>	<p>○各種研修の内容検討、充実 ○相談チャンネル</p> <p><R6> ○経年時研修にてライトポートでの体験実習実施</p>	<p><R4> ○フリースクール方式による委託事業（1施設） ○ガドリンの見直し・周知 ○学習図書への貸与 ○運営補助事業 ○活動費・通所費助成事業</p> <p><R6> ○フリースクール方式による委託事業（2施設）</p>

第一次不登校対策パッケージの成果

パッケージ等を利用する児童生徒は増加

(学校内外で相談・指導を受けている児童生徒数)

令和3年度：1,546人 ⇒ 令和4年度：2,072人

- ライトポート & 教育センターの機能拡充
→ 利用者数増加 (特に小学生)
- スクールカウンセラー相談件数増加
(令和6年1月末現在 延べ 45,592人)
- 家庭訪問カウンセラー相談件数増加
(令和6年1月末現在 延べ 886人)
- ステップルームティーチャーの活用

第一次不登校対策パッケージの課題

★施設利用者の急増

1 ライトポート利用者（6施設利用者総計）

※ 1施設：小：10～15名 中：20名前後を想定して設置
6施設定員総計 **180名前後**

【R2】 小：10名 中：118名 計：128名

【R3】 小：31名 中：168名 計：199名

【R4】 小：123名 中：190名 計 313名

【R5：1月末現在】

小：161名 中：219名 計 **380名**

第一次不登校対策パッケージの課題

2 センターグループ^o (定員20名前後を想定して設置)

【R2】	小：41名	中：24名	計：65名
【R3】	小：50名	中：35名	計：85名
【R4】	小：40名	中：30名	計：70名
【R5：1月末現在】			
	小：68名	中：57名	計：125名

⇒新たな問題が発生！！

- ①学習（授業）時間 週当たり6～10時間
(学校は週当たり29時間)
- ②グループまたはライトポートで不登校状態に
 - ・人間関係構築にとまどい
 - ・大集団で過ごすことが苦手 等

★不登校児童生徒・保護者のニーズが多様化

＜中学校＞

- ・進路実現に向けて勉強したい（高校進学が不安）

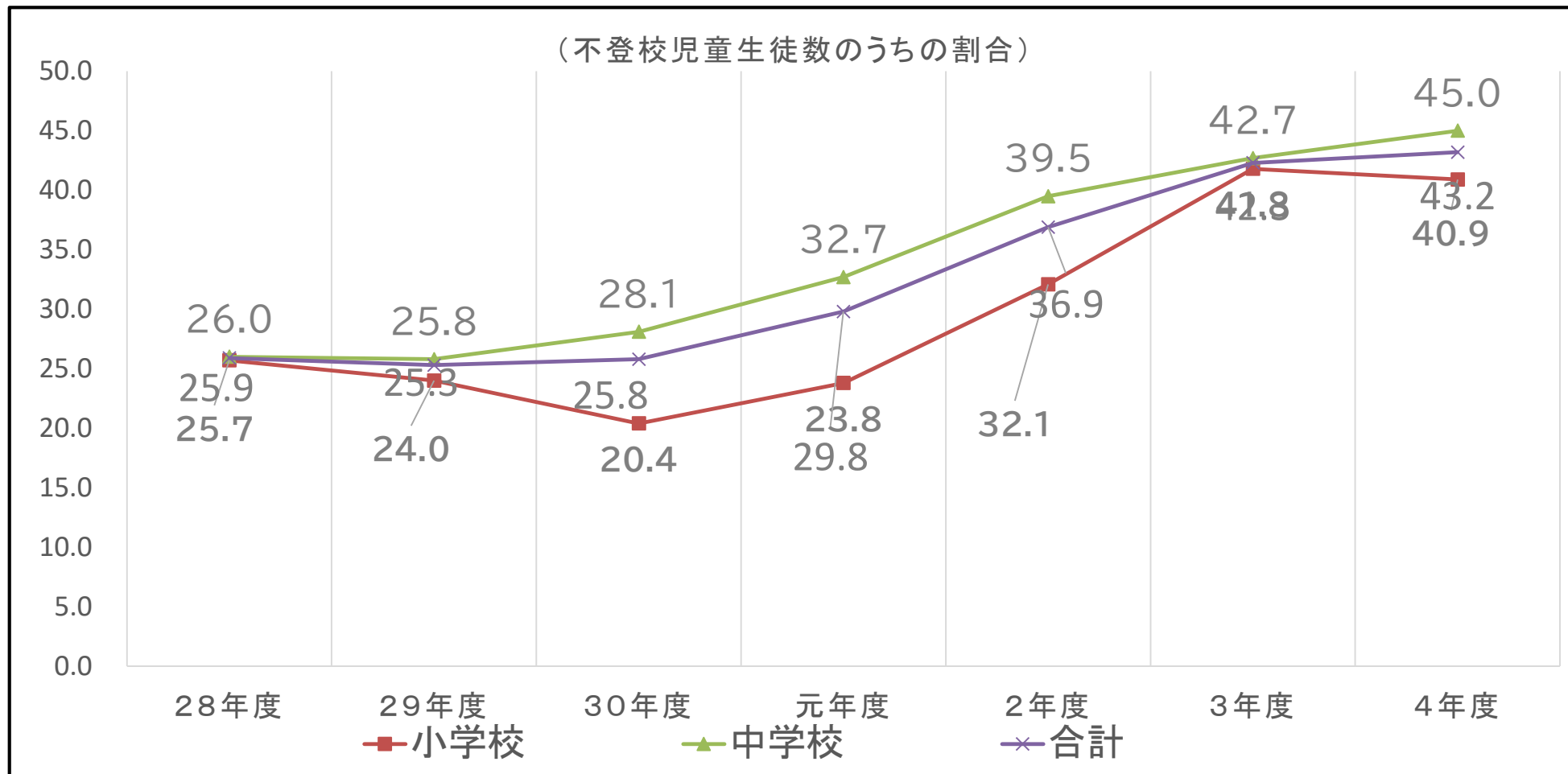
＜小・中共通＞

- ・自分の居場所（心の安定）がほしい
- ・外に出たいけど出られない
- ・勉強が遅れてしまって心配
- ・出席日数と評価が気になる
- ・友達、先生（指導員）と話したい
- ・小集団だったら活動できるのに
- ・友達関係を上手く続けるのが難しい

＜小学校＞

- ・放課後のサービス（こどもルーム等）が受けにくい
- ・通所距離が遠い、親が付き添っての送迎が難しい

学校外の相談・指導（相談機関・専門家）を受けていない児童生徒（千葉市独自調査）



学校外の相談機関等にはつながっていない児童生徒の中で、

学校教職員と繋がっていない児童生徒は

0

(ゼロ)

最後に・・・

①不登校児童生徒数が増え続けている

令和6年1月末現在 1,752人←令和4年度末1,637人

②グループ活動やライトポート利用者が急増

③千葉市として **「誰一人取り残さない教育」** を目指したい

||
学校外の相談・指導を受けていない児童生徒の割合が高い

(R4年度 43.2%) → 児童生徒の居場所を増やしたい

④個のニーズに応じた学習支援・相談支援に難しさ

(多様なニーズへの対応が難しくなってきた)

学校教育審議会の見通し

1 諮問

本市の不登校対策について

- ・ 第一次不登校対策パッケージの現状と課題
- ・ 次期不登校対策パッケージを見据えて

2 次期不登校対策パッケージの 策定に向けて（協議）

- ・ 新たな不登校児童生徒の居場所、学習支援など

3 答申

**委員の皆様
何かご質問はありますか？**

質問をお願い致します。

